

## JICA モンゴル PT 本邦研修生9名が訪問、講義とともに交流を行いました (2017/11/17・11/20)

JICA（ジャイカ）モンゴルプロジェクト（J1722221）の一環として本邦研修コース「耐震診断・耐震補強技術に係る能力向上」の研修生としてモンゴル国危機管理、建設・都市開発省など政府の地震対策関係者とウランバートル市の地震対策関係者、併せて9名が、11月17日（金）と20日（月）に災害科学国際研究所での研修のために、研修監理員と通訳・専門家と共に訪問されました。当研究所 災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野の源栄正人教授は、講義ばかりでなく研修の世話人として貢献しました。17日は、「先端の地震防災対策技術を学ぶ」というテーマのもとに、源栄教授は、大震災以前に実施した文部科学省防災研究成果普及事業や建物の耐震診断・補強と地盤との関わりに関する講義を行うとともに、最近の防災技術である「構造ヘルスマニタリング機能を有する早期地震警報システムの開発・展開」としてウランバートル市にも展開しているシステムに関する講義を行いました。同分野の大野晋准教授は、「建物と地盤の地震観測・微動観測と観測データの利活用」と題する講義を行いました。また、研究室の実験コーナーでのリアルタイム地震観測装置の紹介とともに、建築実験所や免震建物も案内しました。20日は「地震被害と耐震改修を学ぶ」というテーマのもと、午前中は、源栄教授の「東日本大震災の振動被害の実態と教訓～都市・建築の総合的地震対策に向けて」と題する講義および工学研究科健康安全管理室の本間技術職員より「東日本大震災における災害時対応とその後の地震対策」の講義が行われました。仙台城址公園での昼食、伊達政宗像と共に記念撮影のあと、午後には、青葉山キャンパスの耐震改修建物の現地視察を行い、夕方に懇親会で交流を図りました。

モンゴルの研修員からは、建物と地盤の振動について興味深かったとの報告を受けています。



JICA-モンゴル本邦研修生との集合写真



源栄教授講演の様子



講義を受ける研修生の様子